

マルチステークホルダー会議 御中

地域連携事例報告

イオンのレジ袋無料配布中止の取組み

2014年10月23日(水)

イオン(株)グループ環境・社会貢献部
環境&マネジメントグループ
マネージャー 鈴木 裕章

レジ袋無料配布中止の変遷

目的

- ①身近なお買物の際のレジ袋の提供方法の見直し(無料配布中止)を通じて、大幅なレジ袋の排出抑制を実現すること、市民のライフスタイルの行動変容を促し、廃棄物の削減や、温暖化問題を初めとした環境問題へ取組みを促進すること。
- ②企業としては、新しいやり方に挑むことを通じて、新たなビジネスモデルへ転換につなげたい。

■2007年1月11日に京都市にあるジャスコ東山二条店での無料配布中止の取組みを開始。

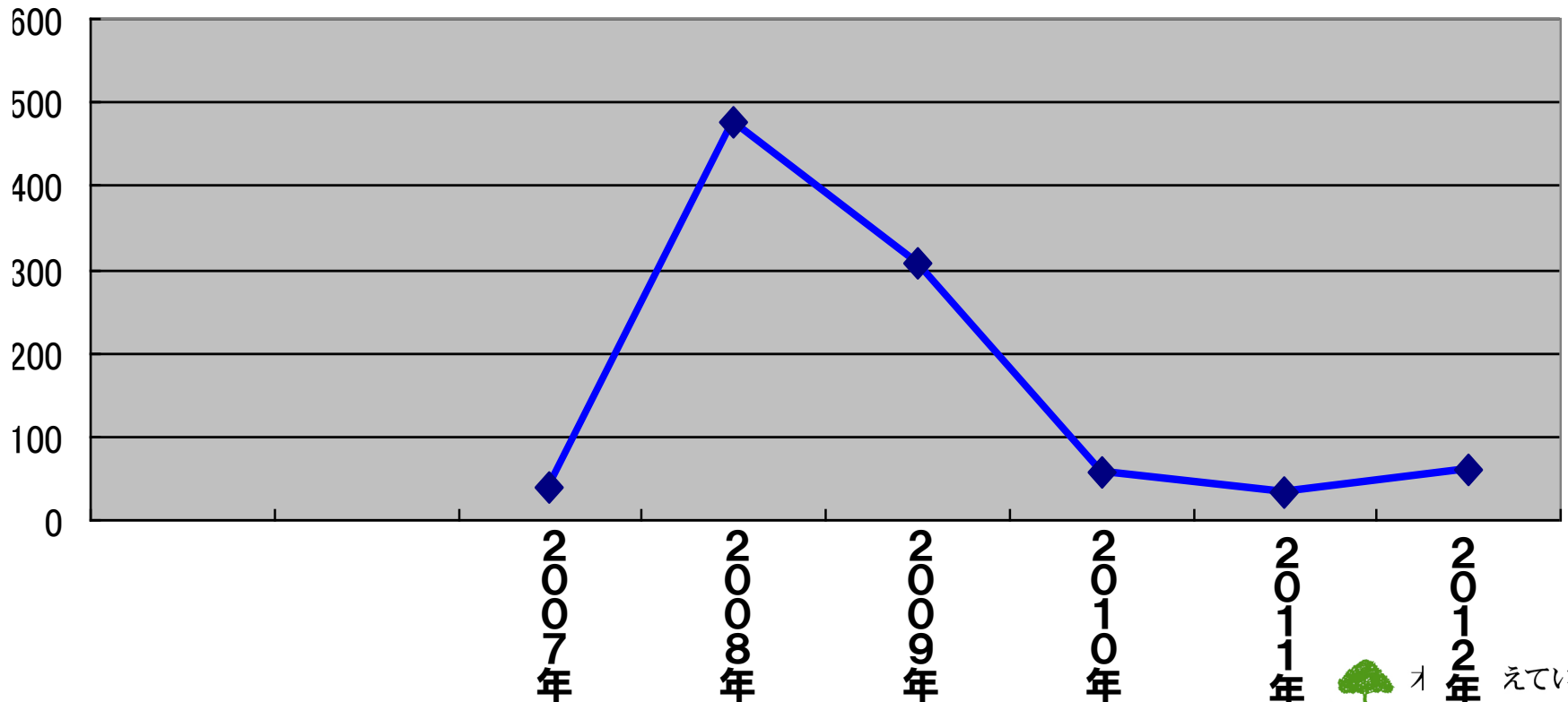
■開始にあたっては、1年半に亘り京都市・市民団体・事業者が話し合いを重ね、参加各セクターで合意形成。その後、各セクターの役割を明確にした地域協定を締結。イオンでは「京都方式」として、以降各地域での取組みのモデルとなる。



レジ袋無料配布中止の変遷

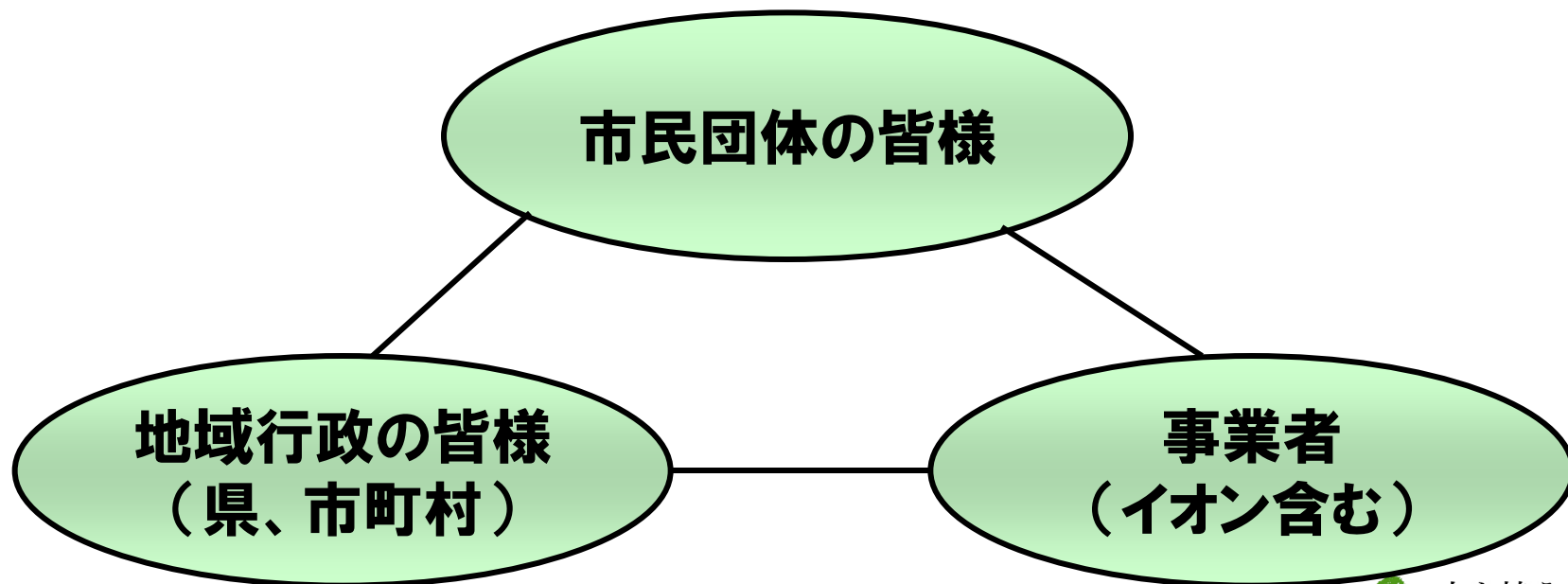
■ 2007年から2008年にかけて全国でレジ袋無料配布中止の機運が高まり拡大したが、2009年以降急激に停滞。

無料配布中止開始店舗数



無料配布中止—3者協定の取組み

- 市民団体、地域行政、事業者でレジ袋削減の協議会を設置
- 同協議会で多数回に渡る協議を実施
- 3者が役割を相互理解し「レジ袋削減の協定」を締結



レジ袋の大幅削減以外にも環境保全効果を発揮

レジ袋販売による収益金の活用

レジ袋収益金が発生した場合は、店舗が所在する自治体・地域の市民団体などに環境保全活動等の活動資金として寄付
※レジ袋収益金
＝(レジ袋売上高-消費税-レジ袋原価)

収益金

地域の環境団体や森林保全活動等に寄付



レジ袋収益金贈呈式

◆2012年度は下記の15市町にて贈呈式を実施。



2012.6.12 札幌市市役所にて
*マックスバリュ北海道㈱との合同贈呈式



2012.6.18 旭川市市役所にて

贈呈先	日時	場所
小樽市	5/15 (火)	小樽市役所本館2階 市長室
室蘭を緑いっぱいにする会	5/24 (木)	室蘭市役所2階 1号会議室
北見市	5/25 (金)	北見市役所北二条飯庁舎3階 市長応接室
もんべつ美しいまちづくり推進委員会	5/27 (日)	ガリヤ地区「港の迎賓館」前
名寄市	6/1 (金)	名寄市役所名寄庁舎3階 市長応接室
三笠市	6/4 (月)	三笠市役所1階 応接室
登別市	6/5 (火)	登別市役所2階 応接室
帯広市	6/7 (木)	帯広市役所4階 市長室
札幌市※	6/12 (火)	札幌市役所10階 市長応接室
旭川市	6/18 (月)	旭川市役所総合庁舎2階 秘書課 第一応接室
江別市	6/22 (金)	江別市役所2階 応接室
伊達市	6/28 (木)	伊達市役所2階 市長応接室
苫小牧市	7/6 (金)	苫小牧市役所5階 第一応接室
岩見沢市	7/7 (土)	市民交流施設「であえーる岩見沢」 地下催事場
余市町	7/11 (水)	余市町役場2階 町長室

2012年度(2011年3月～2012年2月分)の寄付金総額
地方自治体へ : 5,644,012円

成果と課題

<成果>2012年度
レジ袋辞退率 63.4%
レジ袋削減枚数約18億枚

→環境意識の高まりや、行動変容に寄与

<課題>
全国的な拡大

→行政・市民・事業者のコンセンサスづくり

店頭リサイクル回収

アルミ缶や紙パックを店頭で回収して、資源の循環に役立っています。

イオングループの中の22社の合計

紙パック

約1億1,773万本



4,037トン

食品トレイ

約3億3,759万枚



2,281トン

アルミ缶

約2億3,904万本



3,271トン

ペットボトル

約1億1,695万本



6,603トン

プラスチック製品の回収・リサイクル実証社会実験

PLA-PLUS プロジェクトへの参画

環境省

「製品プラスチック等の効率的な回収システムの構築及び再資源化ビジネス支援」



SELF+SERVICEでは、販売した衣料品の回収に取り組んでいます。



回収した衣料品は、海外で再び使用されたり、リサイクルされ、新しいモノやその材料に生まれ変わります。
ご購入いただいたお客さまが店頭にお持ちくださると、お値打ちに商品を得ることができる「ポイント・システム」があります。

回収から再利用の流れ

- 1.お客さまが以前ご購入いただき、ご不要になった衣料品を店頭で下取り、回収します。
- 2.店頭のリサイクルBOXに一時的に保管し、定期的に提携回収業者に依頼し、選別工場に送られます。
- 3.選別工場にてリユースされるものと、リサイクルされるものに選別されます。

リユース

まだまだ着られる衣料品はNGOなどを通じて、海外に輸出され再利用されます。また、裁断し工場用ぞうきん(ウェス)としても活用されます。

リサイクル

衣料品をほぐして、わた状に戻し別の製品や繊維に生まれ変わります。

事業特性
毎日、400万人のお客さまのご来店
多様なステークホルダーとの関わり

地域に密着した小売業として、
店舗を起点にお客さまと共に取り組みを推進

多様なステークホルダーとの
戦略的な連携・協働

ご清聴ありがとうございました。